

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100107		
法人名	社会福祉法人 愛全会		
事業所名	グループホームハートハウス南円山 モナコ		
所在地	札幌市中央区南10条西23丁目2-13		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年11月4日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system:kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190100107&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然と都会を調和した南円山地区に、昨年平成22年10月1日に開設致しましたグループホームです。
 3階建ての建物で、1階は地域交流スペースとして、地域の方々との交流の場と近隣地域の方々にご利用頂く為、ご用意致しました。近隣地域の方への専門インストラクターによる『介護予防体操』を広めていくと共に、音楽等のふれあいの場や町内会での会合の場として、ご利用して頂きたいと思っております。
 ご入居者様には慣れ親しんだ都会生活を継続して頂く為、中心部への個別外出や行事を大事にし、又、自然の多い環境を十分に感じて頂くような生活をして頂いております。
 軽度の認知症の方が多いグループホームとして、入居者様の機能維持、介護度が低下しないような支援に重点をおいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新築の事業所は、運営母体である福祉法人の長年培った総力が随所に活かされ、手すりや床材など、細部まで利用者の安心安全と、職員の動線を考慮し造られている。1階は玄関と地域交流スペースで、町内会や近隣住民に無料で開放されており、キッチンやトイレも完備している。2・3階がグループホームで、各ユニットのリビングルームの大きな窓からは、近くの公園が見渡せ、遊具で楽しむ子供達や、犬の散歩をしている人達を眺められ、住み慣れた地域での生活が実感できる。毎日の散歩や運動のほか、利用者の経験や知識が発揮できるように、個別の外出や外食、行事の準備や参加を支援している。また身体機能に合わせたレクリエーションを日課とし、事所内でも楽しく過ごせるよう工夫している。近隣住民との交流も盛んで、ラジオ体操や子育てサロン等の地域行事の参加や、事業所の誕生祭・花火大会や防災訓練にも近隣住民が参加しており、中学生の職場体験も実施している。地域密着型として、利用者本位を実践している温かい事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域に根ざし、交流を深め、支え合う暮らしの中で、一日一笑』をカンファレンス等で理念に基づいてケアをしているか確認している。又、その人らしい生活が成り立つよう、理念をケアプランに繋げ支援しております。	地域との交流を大切にした、事業所独自の理念を共用空間に掲示している。利用者の安心・安全・尊厳を尊重し、理念に基づいた、ケアの実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動には積極的に参加しております。職員が町内総会に参加し、ご入居者様も一緒に新年会、町内清掃、子育てサロン等に参加しております。	町内会に加入し、地域行事に参加している。事業所の花火大会・防災訓練には、地域の人々が参加し交流しており、中学生の職場体験も実施している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活のご様子を運営推進会議や消防訓練に参加して頂き、認知症の方の理解を深めて頂く事に努めております。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、生活の様子や事故報告をお伝えすると共に、地域の代表の方や消防の方々にも意見を頂き、サービスの向上に活かしております。	利用者・家族・地域代表・地域包括支援センター職員等が出席し、行事予定と報告・地域との交流・防災計画等が話し合われ、事業所の運営に効果を上げている。議事録は利用者家族に送付している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市や各区の連絡会議に出席し、他事業所の方々との交流や情報交換しサービスの向上に努めています。また市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。	管理者会議・グループホーム協議会・管理者連絡会等に出席している。全職員は情報を共有し、ケアサービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修、マニュアルを通し、職員一同日頃より努めております。研修年間計画の中には必ず、全スタッフが研修に参加する様、3回に分けて実施している。	全職員は内部研修会で、虐待や身体拘束について学び、利用者がうける心理的な弊害を認識し共有しており、マニュアルも完備し安全で快適な生活を支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止システムによる研修会にスタッフが参加し理解浸透に努めている。法令遵守に向けた研修も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修により理解を深めるよう努めています。必要がある場合にはその都度関係機関と協力していける様、体制を整えています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添って丁寧に説明させて頂き、入居者様やご家族の疑問や不安をお聞きし、理解納得した上でサインを頂いています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やご家族様へのアンケートを行い、意見要望等を取り入れ反映させています。又、ご入居者様、ご家族様の様子から、気持ちを汲み取る努力をしております。	意見箱を設置している。利用者家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聞いている。サービスの質の向上を目的とした、家族アンケートの結果は、ケアの実践に効果を上げている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の愛全会管理者連絡会議があり意見要望を伝える機会を設けて、反映させています。また年2回自己申告書により職員の意見や提案を聞く機会があります。	管理者は全体会議やユニット会議で積極的に職員の意見等を聞く機会を設けている。また年に2回の人事考課を基に、個人面談を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得(自己研修)時に時給アップを行っています。年に2回人事考課を行い、自己評価を自身の実績を基に、面談を行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じた(新人・現任・計画作成者・管理者)内部研修を行うと共に、中央区でのスタッフ研修や外部での研修の情報を収集し受講できるようにしています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区連絡会の参加を始め、法人グループホームとの勉強会、委員会、各ユニットへの実習研修を行い、互いに意識を持ってサービス向上に活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご本人とお会いし、ご家族様を交えたお話し、馴染みの関係を入居前に少しでも築ける様、努力しています。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご家族様とお話しさせていただいています。出来る限り、連絡を取りお話しする事で、ご家族様の心情を伺えるよう努力しています。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、ご家族様の思いや現状を出来る限り、引き出す努力をし、その人らしいケアプラン作り、ご家族様が安心して頂ける様に努めています。又、常時思いを伺う事でケアプランに活かしています。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活の主役がご本人である事を職員間で強く認識し、ご本人の役割、力の発揮をしっかりとって頂き、ご本人のペースに合わせた生活をする事で、疑似家族な関係になるよう努めています。</p>			
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様とは、面会時、電話連絡等で常に連絡をさせて頂き、情報交換をする事で、共有の時間を大事にし、共にご本人の生活の支えになれる様努めています。</p>			
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人の生活習慣を変えないよう、友人の来訪や外出をご家族様に限らず、職員も一体となり、支援しています。美容室や買い物、友人・ご家族様との会食の場を継続し続けるよう努めています。</p>	<p>昔からの生活習慣を大切にし、家族同伴で墓参りや初詣に出掛けている。スポーツクラブの利用や、旧友と食事外出等の支援をしている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご本人同士が交流を持てるよう、レクリエーションや外出の場を作っています。又、個々での交流の場も大事にして頂ける様、環境を作り、時に職員の仲介にて、関係作りをしています。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後にも、病院へのお見舞いや関係機関を通し、ご家族様へ挨拶等させていただきます。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活状況を踏まえ、アセスメントを行い、日々の関わりで、ご本人の表情、言動、行動を観察する事で、ご本人の希望を聞き入れ、又、思いを引き出すよう努めています。	センター方式を活用し、家族から得た情報や、日頃の行動・表情・過去の生活歴を基に、思いや希望の把握に努め、利用者本位の対応を心がけている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様からの情報収集に日々努めています。又、ご入居時には、ケアマネージャー等から過去の様子を伺っています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々自由に生活して頂く環境を作り、ご本人の言動、行動から生活リズムを作って頂ける様、努めています。又、体調や気分に合わせ家事、趣味活動をして頂く事で、アセスメントに活かしています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で、ご本人の気持ちを聞き出し、ケアカンファレンス時には、事前の聞き取り(ご家族、医師、看護師)を行い、より良い計画書作成に努めています。	利用者の状況に合わせ、本人・家族の理解のもとに、状態に即したケアプランを作成している。変化が生じた場合は随時見直しを図り、実情に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録をケアプランを基に記録し、他、送り表、気づきノート、家族連携表を、モニタリング・評価や必要に応じ、記録を用いたアセスメントを行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望も含め、ご家族様の状況に合わせ受診や美容室等、職員にて対応させて頂く事もあります。当ホーム車両も使用しています。又、ご本人ご家族様から気軽に依頼して頂ける関係づくりに努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりの場として、町内会活動には、積極的に参加させて頂いています。又、事業所内で行われるボランティア等も近隣の方々に参加して頂き、関係作りに努めています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師、看護師との密な医療連携を行う事で、ご本人ご家族様が安心した受診を継続できるように努めています。	利用者希望のかかりつけ医には、入居後もそのまま受診し、送迎と付き添いを行っている。また個々の病状に合わせた医療機関を受診できるように、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理(訪問看護師)の際には、心身の状態について報告しています。又、緊急時以外でも、日頃から相談できています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に関しては、医療機関に介護情報を書面、口頭で提供しています。又、ご本人の状態に合わせた退院に向け、医療関係相談員、ご家族様と相談、話し合いを行っています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴うケアについて説明を行い、医療連携を十分に活用し、ご本人ご家族様にとって最良のケアを行うよう努めています。	重要事項説明書に、『重度化した場合における対応に係る指針』が明記されており、入居時に説明し、関係者全員で方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での緊急対応研修を定期的に行っています。又、事業所内での連携を用いた緊急対応に努めています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練の実施を基に、入居者様、近隣の方を交えた避難訓練を実施しています。	全職員は、救急救命講習を年1度受講し研鑽している。非常用食料品も備蓄しており、事業所の3階から、災害用の滑り台が設置されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が安らげる声かけを心掛けています。又、ご本人の羞恥心に十分配慮し、ケアにあたっています。	言動に配慮しながら、個々の尊厳を大切にしている。書類などの個人情報 は、ユニットの管理室で保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との信頼関係を築く努力を、日頃より心掛け、ご本人が訴え易い雰囲気作りをしています。又、個人の状態に合わせ、気持ちを読み取る努力に努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や気分に応じ、食事時間や入浴を行えるように努めています。外出に関しても、勤務時間に囚われず柔軟に対応しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さり気ない声かけをする事で、整容をして頂いています。定期的にビューティーボランティアにも参加しお洒落心を大事にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のふれあいから、ご本人の嗜好を聞きだす事に努めています。家事を仕事として行う方、楽しみとして行う方、それぞれに応じた声かけをしています。	利用者は持てる力を発揮して、調理・配膳・後片付け等を行なっている。職員はさりげなく見守り、食事が楽しい場となるように支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立メニューを提供しています。体調や気分による食欲減に関しては、別メニューや好みの物を用意し対応し、時に医師と相談の上、栄養剤の服用をして頂きます。水分量の摂取を1日1300ccを目安にご本人が摂取しやすい工夫をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きへの声かけ、準備等で行って頂いています。義歯の方への毎晩の消毒や必要な方に応じ、訪問歯科衛生士による口腔ケアを行っています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握し、個人の排泄パターンに合わせた、トイレへのお誘い等を行っています。排泄パターンを把握した上で、オムツから布パンツ使用を試みています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導し排泄の自立支援をしている。3ヶ所あるトイレは使いやすく整備され清潔である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を常に意識しています。又、日頃よりレクリエーションを通じて、体を動かす事、血行を促しています。医師へ相談し、下剤調整もしています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺ったりし、入浴をして頂くよう努めています。希望に応じ毎日の入浴や夕暮れ時間の入浴も柔軟に対応しています。	利用者の希望や体調に合わせて、ゆっくり入浴できるように支援している。入浴を好まない利用者には、声かけや時間を工夫しながら支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムを把握する事で、リズムが崩れないよう休息時間を取って頂いたり、定期的な巡回にて、室内温度調整を行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方都度の確認を始め、必要に応じ薬剤師から指導を受けています。又、定期的な薬に関する研修を行い、薬に対する知識を得、日々のケアに活かしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々笑顔のある生活が送れる支援をしています。個人こじんの特性を認識する事で、その人の喜びとは何かを、アセスメントし、ケアに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気に触れる事を日々目的とし、出来る限りの外出支援をしています。又、外出行事等も定期的に行い、出掛ける事の楽しさを味わって頂いています。	向かいには大きな公園があり、毎日のように散歩に出掛けている。自然に屋外へ出掛けられるように、外出計画が年間行事の中に多数盛り込まれている。ウッドデッキでの野菜や花作りも、利用者の楽しみとなっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布管理をされている方に関しては、近隣スーパーでの買い物や、美容関係の支払いを職員同行の元、ご自身で行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、ホームの電話を使用して頂いています。中々お会いできないご家族様への手紙のやり取りが出来るような支援をしています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に環境整備に努め、季節に合った装飾や花を飾る事で、安らいで頂く工夫をしています。又、照明を目に優しい明りを使用し、食事時間は軽音楽で雰囲気作りをしています。	リビングには、趣味の良い絵画や美しい生花が飾られ、癒しの空間となっており、広々としたキッチン、利用者が調理や片付け等に参加しやすい、アイランド型となっている。事業所全体が利用者の安全と、介護者の動線を考慮した造りになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人が居心地の良い環境を作るよう努めています。ちょっとした空間で、交流が出来るよう、その時に応じ臨機応変に椅子等を提供しています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お一人の時間も大事に過ごせるよう、家具配置や危険防止等、ご家族様の協力を得て、行っています。	居室には大型クローゼットが設置されており、使いやすく清潔である。個々の思い出の家具や小物が持ち込まれ、安らぎの場となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、バス、洗面所、多目的室等、共有で使用する場所を含め、絵や文字で理解できる工夫を行い、自身で見て行動して頂き、体で覚えて頂ける様、見守りケアを重視しています。		